

ピクニック2024 開催!



4月7日(日)にヒューストン日本商工会・グレーターヒューストン日本人会共催のピクニックを、昨年に引き続き観光牧場Oil Ranchにて開催致しました。予報では雨天の可能性もありましたが、幸い当日は天候に恵まれ、昨年とほぼ同規模の約1,000名が参加し大盛況となりました。

12時過ぎからの開会式と共にピクニックがスタート。今年もBBQランチやポップコーン、かき氷などが会場から提供され、皆さんで食事を楽しみました。食事以外のイベントとしては、商工会が企画した「わいわい宝探し」や「わくわくサックレース」は子どもから大人まで多くの方に参加頂き、ペーティングズやヘイライド、トレインライドなどの会場のアトラクションも大盛況でした。また、今年には日本テキサス医学振興会(JMTX)様の展示ブースもあり、血圧/血糖値の無料測定や子供向けアクティビティも充実しており、とても賑わっていました。

閉会式では、望月領事よりご挨拶頂いた後、サックレースの表彰式やラッフルの当日抽選会を行いました。ラッフル抽選会では、日本往復航空券やレストランギフト券などの豪華賞品が用意され、皆様が見守る中、抽選番号が読み上げられる度に歓声が響きました。

大変多くの参加者にも関わらず、大きな怪我や事故もなく無事ピクニックを終了することができました。参加頂きました皆様はもとより、協賛金・ラッフル抽選賞品をご提供頂いた企業・団体の皆様、日本人会の皆様、商工会幹事チームや準備・運営をお手伝い下さったボランティアの皆様など、ピクニック開催にご協力頂きました全ての関係者の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。

来年以降の参考とさせて頂きますので、ご意見・ご感想は[こちら](#)からお寄せください。

(文化委員長 早坂晃/米国三井物産)

▶杉本ANAヒューストン支店長(右)



望月領事



早坂商工会副会長
兼文化委員長



武智日本人会会長



目次	1〜2…ピクニック	5…犯罪遭遇率は日本の100倍!?	8…P8続き・駐妻日記	11…あそぼーかい・ワン! モア
	3…日本人会&JMTXピクニック	6…ハリケーン情報・会社紹介	9…教頭先生着任・入園・入学式	12…ゴルフアンケート・議事録
	4…ソフトボール大会	7…テキサス州から見る宇宙・ロケット産業	10…テキサスメディカル	・Houston Walker・編集後記

わいわいサックレース

テキサスの牧場ならではのサックレース。サックを身に着け、位置について、よーいどん！ ゴールへと一目散に飛び跳ねます。小学生から大人まで、各カテゴリーのレースで白熱戦が繰り広げられました。「またやりたい」という声もあり、多くの方に楽しんでいただけたかと思います。会社・グループ代表戦は、選手の皆様からの『大人の本気』が伝わってくる戦いに、観客の皆様の応援にも熱が入って、大変盛り上がりました。優勝者の皆様、おめでとうございます！ また、走者の皆様、応援して下さった皆様もありがとうございました！



ボランティアの皆さん、ありがとうございました！



会社・グループ代表選の栄冠は三井物産チームに！



わくわく宝さがし

2024年ピクニックのアクティビティとして10年振りに宝探しを開催致しました。過去の宝探しは小さいお子様が対象でしたが、今回は幼児から小2、小3から小6、中学生から成人と3グループに分け実施されました。人数が集まるか不安でしたが、時間前からまだかまだかと参加者を集まって頂き、干し草が見えなくなるほど大盛況となりました。小さいお子様から成人の方々までみんな一生懸命宝探し(当たりくじが入った小さい封筒)をされていたのが印象的でした。



ラッフル抽選会

ピクニックも終盤に差し掛かり、皆さんが待ちに待ったラッフル抽選会の時間となると、事前抽選で当選しなかった方々の、今度こそは当たりますように！の意気込みが会場に伝わってきました。抽選クジが引かれるたびに大きな歓声上がり、会場は大変な盛り上がりを見せました。多数の企業から寄付された(事前抽選を含む)豪華な賞品は140点ほどもあり、どれも皆さんが当たって嬉しい商品ばかりでした。最後に抽選された日本往復券では当たり番号が一桁ずつ読み上げられ、番号が1つ発表される度に皆さんドキドキ、大興奮のフィナーレとなりました。当選者の皆様はおめでとうございます！残念ながら何も当選しなかった皆様はまた来年に乞うご期待です！



グレーターヒューストン日本人会 ピクニックは素敵な交流の場

2024年のピクニック参加者約千名のうち、日本人会としては、お医者さんグループを含め約90名が参加しました。

日本人会のコーナーは本部テントの一角で飲み物コーナーに近かったため、参加された多くの方が立ち寄られ交流を深めました。

初めて参加されたユンさんと直実さんは、『ヒューストンにこんなにも日本人がいたんだ！』と驚きました。今回は、当日ラッフル券販売を通じて皆さんとお話できました。様々なバックグラウンドを持つ日本人と共に過ごす時間は特別なものです。笑顔あふれる会話、美味しいBBQ、特に子供たちが広い牧場で伸び伸びと楽しむ姿が印象的でした。最後のラッフル抽選会の盛り上がりはドキドキワクワク、大人も楽しめました。こんな素敵な交流の場があるなんて、もっと早く知りたかったなあ。」と、ピクニックを満喫されていました。



日本テキサス医学振興会 JMTXブース初出展!

いつも皆さまからご支援頂きどうもありがとうございます。普段はオンラインでの医療情報発信がほとんどなので、今回は商工会様からのご厚意により、ピクニックでブースを初めて出展させて頂きました。ルーレットをドキドキ楽しむたくさんのお子さん達を始めとし、聴診器や注射器に触ってみるお子さん、脚の骨の模型を見て、人の足ってこんなにたくさんの骨からできているんだと驚く高校生のお客さん、真剣に血圧、血糖測定をされる大人のお客さん、と様々な方と触れ合えて、私達も楽しませて頂きました。管理栄養士によるヘルシースナックの試食(チェリオ、乾燥バナナ、チョコレートレーズン、M&Msのミックス)はとても好評でした。日本テキサス医学振興会(Japan Medical Association in Texas (JMTX))の活動内容やヒューストンの医療情報に関してご質問のある方は、[当ホームページ](#)よりお問い合わせ下さい。



ソフトボール大会 優勝はアストロズ!



▲準優勝トロフィー授与 Storms



▲優勝トロフィー授与 アストロズ



▲3位トロフィー授与 住友ダッシュ

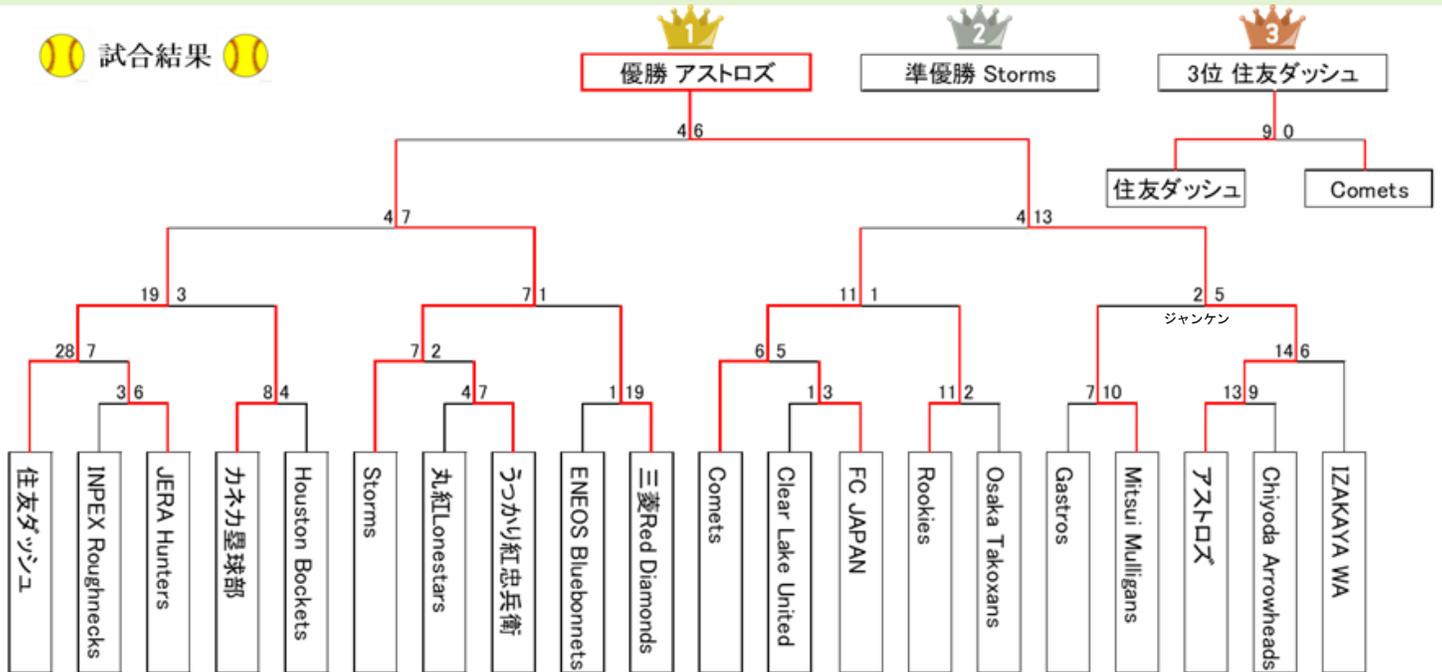


▲白熱の決勝戦 Storms vs アストロズ



▲坂本俊則さん・藤田由利子先生

試合結果



ヒューストン日本商工会主催の総領事杯ソフトボール大会が4月28日(日)、Shadow Creek Ranch (Pearland)にて開催され、全20チームが熱い戦いを繰り広げました。各チーム入念な準備・練習を積み、高い技術と熱意をもって大会に臨みました。

今大会から、①各バッター1ボール1ストライクからの開始、②一度ベンチに下がった女性及び子供枠の選手の再出場可の新ルールが導入され、試合展開の早い白熱の戦いとなりました。中でもFC Japan対Cometsは1点を争う攻防となり、最終7回裏にCometsが逆転サヨナラで接戦を制しました。また今年、敗者戦の導入により、多くの方が試合に出場でき、1日を

通して親睦を深めていただくことができました。

大会のクライマックスの決勝戦、Stormsとアストロズが激突し、優勝杯を手にしたのはアストロズ。昨年初戦でStormsに敗退した悔しさをバネに勝ち上がり、4-6の接戦を制して栄光の瞬間を掴みました。

この場をお借りして、事前準備・当日の運営にあたった大会事務局の皆様、救護ボランティアに来ていただいた坂本俊則さん(OPA)と藤田由利子先生(MD)に感謝の意を表したいと思います。長沼新総領事はじめ、本大会にご参加いただいた皆様のおかげで素晴らしい大会を成功裏に終えることが出来ました。ありがとうございました。

犯罪遭遇率は日本の100倍!?

数字から読み解くヒューストンの治安

ガルフストリームでは、安全・危機管理の一環として毎年ハリケーンと冬の寒波に備えた注意喚起を行っており、今月号でもハリケーンについての特集を組んでおります。これらはヒューストン特有の自然災害を対象にしていますが、本稿ではより日常的に発生している強盗や窃盗といった犯罪に関して、日本と比べてどれだけ遭遇しやすいのか、その発生件数を基に紹介いたします。

筆者自身はヒューストンに駐在して今年が3年目になりますが、幸いなことにこれまで犯罪に巻き込まれた経験はなく、ともすると治安の悪い米国に住んでいるという自覚が薄くなることがあります。これまで漠然と米国は日本と比較して犯罪が多い国という認識はありましたが、今回改めて統計的な数字に基づいて、テキサス州やヒューストンの治安について、日本と比較してどの程度犯罪に遭う確率が高いのかを調べてみました。

米国では毎年FBI(Federal Bureau of Investigation: 米国連邦捜査局)が全米の各自治体の法執行機関(警察署等)からの報告を基に犯罪の発生件数を公表しています。犯罪の種類は細かく分類されていますが、ここでは殺人や強盗、暴行といった「凶悪犯罪」と、盗難や車上荒らし、車両窃盗といった「窃盗犯罪」(放火も含む)の二つに大別して見ていきます。

まず「凶悪犯罪」について。図1のグラフは2012年から2022年までの、人口1千人あたりの凶悪犯罪の発生件数を示しており、テキサス州と全米平均を比較しています。いずれの年もテキサス州が全米平均を上回っており、11年間の平均ではテキサス州では1千人あたり4.2件の発生頻度で、全米平均3.8件の約1.1倍となっています。テキサス州は米国の中でも比較的治安が悪いと言えますが、これらの発生頻度は日本と比べてどの程度高いのでしょうか?

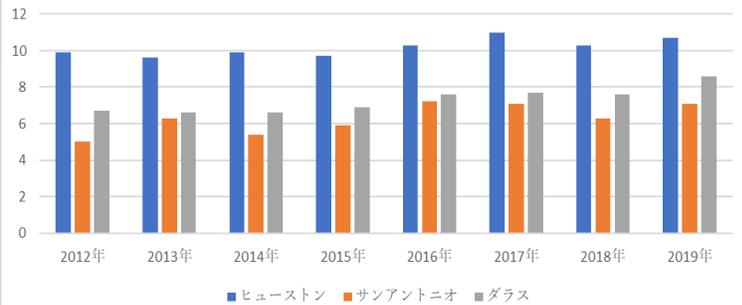
日本では警視庁が同様に犯罪の発生件数(認知件数)を毎年公表しています。米国の統計とは分類が少し異なりますが(例えば放火は凶悪犯罪に含まれています)、発生件数を日本の人口で割ることにより、米国とおおよその比較をすることができます。試算の結果、日本の凶悪犯罪の発生頻度は同期間の平均で1千人あたり0.09件となります。文字通り桁違いに発生率が低い米国と日本を同じグラフ上で比較することはできませんが、テキサス州は日本より50倍近く凶悪犯罪に遭う確率が高いと言えます。

図1: テキサス州と全米平均の凶悪犯罪数 (人口1,000人あたり)



続いて図2ではテキサス州のうち3大都市のヒューストン、サンアントニオ、ダラスの凶悪犯罪の発生件数を示しています。FBIでは都市別の統計は2019年までしか公表されていないため、ここ数年の比較ができていませんが、ヒューストンは3都市の中で一番発生率が高く、いずれの年も全米平均の倍を超えており、平均で1千人あたり10.2件の発生件数(100人に1人が凶悪犯罪に遭遇)となっています。他方、日本の大都市である東京都の凶悪犯罪の発生頻度を試算すると、同期間の平均は1千人あたり0.12件となります。従い、ヒューストンで凶悪犯罪に遭う確率は東京都の約85倍となります。

図2: 都市別の凶悪犯罪数 (人口1,000人あたり)



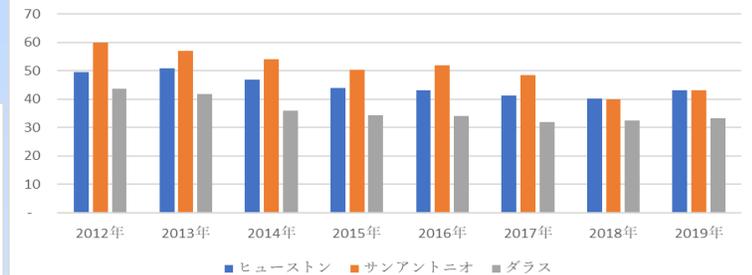
次に窃盗犯罪について。窃盗犯罪についても同様に、図3で1千人あたりの発生件数をテキサス州と全米平均とで比較、図4で3大都市を比較しています。窃盗犯罪は2012年から減少傾向にあります。凶悪犯罪と比べると発生頻度が格段に高くなり、期間平均で1千人あたりテキサス州は28.2件、ヒューストンは州平均の倍近い44.9件(100人中4-5人が窃盗犯罪に遭遇)となります。

日本は2012年以降米国以上に窃盗犯罪が大幅に減少しており、期間平均では日本全国の1千人あたりの発生件数は0.71件、東京都は0.67件です。従い、ヒューストンの発生頻度は東京都の約67倍となります。但し、2022年の東京都の発生件数は0.19まで下がっているため、直近では比較倍率はさらに大きくなっているものと思われます。

図3: テキサス州と全米平均の窃盗犯罪数 (人口1,000人あたり)



図4: 都市別の窃盗犯罪数 (人口1,000人あたり)



ヒューストン市内でも治安状況は地域や時間帯によってバラつきがあるとは思われますが、これまで見てきたように統計的な数字からヒューストンの治安の悪さが再認識できたことと思います。少し乱暴な言い方ですが、ヒューストンは日本と比べて100倍近く治安が悪いという心構えでいる必要があると思われれます。

最後に、犯罪に遭うことを未然に防ぐためには、やはり日本以上に注意を持った行動が大切となります。夜間危険な所には出歩かない、人気のない所を一人では歩かない、車には貴重品や鞆を放置しない、荷物からは目を離さないといった基本動作を徹底して頂ければと思います。

なお、在ヒューストン日本国総領事館のホームページでは、[安全・防犯情報](#)としてより幅広く具体的な安全対策が「安全の手引き」として纏められていますので、こちらもご覧頂ければと思います。

(安全・危機管理特命理事 竹原 優)

ハリケーンに備えて

これからヒューストンに暑い夏が訪れますが、それと同時にハリケーン・シーズンも始まりを告げます。毎年6月1日から11月30日までがハリケーン・シーズンとされており、中でも8月中旬から10月中旬頃が最盛期と言われています。ヒューストン近郊にハリケーンが上陸した場合には甚大な被害を受ける可能性があり、水や電気といったライフラインが長期間に亘り機能しなくなる恐れがあります。

ハリケーンは襲来を予測することが困難な自然災害ではありますが、いざ上陸した場合に備え、日頃から事前に十分な準備をしておくことが非常に大切になります。ここではハリケーンに関する基本的なことや過去にあった被害を振り返り、事前準備の重要性について述べさせていただきます。

米国では熱帯低気圧を最大風速に応じて分類しており、最大風速が時速39-73マイルに発達したものをTropical Stormと呼び、時速74マイル以上のものをハリケーンとしています。さらにハリケーンは風速の強さに応じてカテゴリー1から5までの5段階に分類され、カテゴリー3以上をMajor Hurricane(大型ハリケーン)と呼んでいます。日本の台風の強さと比較すると、Tropical Stormは表現のない「台風」に相当し、ハリケーンのカテゴリー1は「強い台風」、カテゴリー2は「非常に強い台風」、カテゴリー3以上は「猛烈な台風」に相当しますので、天気予報やニュースでTropical Stormやハリケーンが言及された際には台風との比較でその強さをイメージして頂ければと思います。尚、Tropical Stormとハリケーンには発生順にアルファベット順で名前が命名されます。

米国海洋大気庁(NOAA)の発表では、メキシコ湾のある大西洋側のTropical Stormとハリケーンの発生数は過去平均14個ですが、昨年は20個で1950年以来最多となりました。これは昨年歴史的に高かった大西洋の海面温度や強いエルニーニョ現象の影響と見られています。昨年発生

した20個の内、7個がハリケーン(内、大型ハリケーンが3個)でした。上陸したハリケーンはフロリダを襲ったIdaliaの一つだけでしたが、非常に大きな被害をもたらしました。また、ノースカロライナではTropical StormのOpheliaが上陸し、大規模な洪水の被害を受けています。

ヒューストンではここ数年ハリケーンによる大きな被害は受けていませんが、2017年にはカテゴリー4の大型ハリケーンHarveyが上陸し、米国観測史上最大の降水量を記録し、ヒューストンの1/3が水没、13百万人と家屋13.5万軒が被災、1百万台の車両損壊、死者103名という甚大な被害をもたらしました。Harveyによる被害総額は米国の記録上2番目の規模となる1,525億ドルにも上るものでした。

商工会では2022年に自然災害に関する“備えあれば憂いなし”ウェビナーを開催し、Harveyで被災されたお二方の会員様から貴重な体験談をご講演頂き、実際に遭われた被害のご様子や、自然災害に備えて日頃からどのような準備が必要となるのか、また災害が発生した際にはどのような対応をしなければならないのかといったことにつきお話し頂きました。ウェビナーの様子は商工会ホームページの[「安全・危機管理情報ページ」](#)のハリケーン情報にご講演の録画映像と資料を掲載していますのでご覧になれます。また、こちらのページにはその他にも、ハリケーン関連情報の入手先、具体的にどのような準備が必要か、Harvey体験談等が収められていますのでご参照頂ければと思います。

今年もハリケーンの被害に遭うことがないように願っておりますが、自然災害ばかりは起こってしまえば避けることができません。ハリケーンはもちろんですが、比較的勢力の弱いTropical Stormであってもヒューストン近郊に上陸すれば洪水や停電、断水といった被害は起こりえますので、ハリケーンやTropical Stormが近付いてきた際には飲料水・生活水や食料、携帯電話の充電器、洗い物が不要な紙コップや紙皿等の確保、車のガソリンを満タンにする等、事前にしっかり準備をしていただければ幸いです。

(安全・危機管理特命理事 竹原 優)

会社紹介

Relo Redac Inc.

準会員 大島 達也 さん

1. 会社の業務内容等について簡単にご説明ください。

Relo Redac, Inc. (通称:リダック)は、企業・人・資産のリロケーション支援を目指し、1986年ニューヨークにて法人設立、その後2005年にリグループ(東証一部上場)のグループ会社となりました。事業内容としては、総合不動産サービス(住宅不動産、商業不動産、サービスアパートの運営、不動産投資・管理)と企業向けサービス(モビリティ・マネジメント・サービス、家賃・規程コンサルティング、法人向け賠償保険・医療保険)が二つの柱です。現在、在米の日系不動産企業としては最大規模となっており、全米13都市の拠点と全米のネットワークで日々リロケーションを支援しています。

2. ヒューストン/テキサス州の印象についてお聞かせください。

私は普段ミシガン州デトロイト郊外に住んでおり、数か月毎に一度の頻度でテキサス州各地に出張をしています。カナダ国境に面しているミシガン州(冬の厳しい州)からメキシコに隣接しているテキサス州(夏の暑さの厳しい州)に来ると気候の違いはもちろんですが、人々や街の多様性に驚き、改めてアメリカの大きさを実感しています。そして何より都市部の渋滞に毎回驚かされ、朝夕のラッシュアワーだけでなく、一日中渋滞が続いているというのが、真っ先に思い浮かぶヒューストン・テキサス州の印象です。また、一つの州に大都市と呼ばれる都市がいくつもあり、都市毎にそれぞれ特化している産業が異なるということもテキサス州を訪問し気づかされました。

3. その他、個人的な関心事(趣味等)についてお聞かせください。

日本では、学生時代から社会人になってからもずっと野球をしており、アメリカでも草野球をしたいと思っていたのですが、アメリカでは草野球よりもソフトボールの方が人気がある(ミシガンだけかもしれませんが)ということで、2013年に渡米して十年以上経ちますが、四月から十月は週に三から四日ペースで米人に混じりソフトボールを楽しんでいます。デトロイトの商工会主催のソフトボール大会では野球好きが集まっている日本人チームに所属し、現在六連覇中で毎年優勝後のビールかけを目当てに日々がんばっています。ヒューストンでも一度プレーしてみたいです。



右下しゃがんで青のゴーグルをもっているのが大島氏

テキサス州から見る宇宙・ロケット産業 米国と日本の比較

この記事では、テキサス州でいま最も熱いロケット、SpaceX社の Starship (2段目・上側) / Super Heavy (1段目・下側)ロケットの動向を見ながら、米国と日本の宇宙・ロケット産業について、筆者の私見も織り交ぜながら読者の皆様にご紹介したいと思います。

世界で最も巨大なロケット Starship

2024年3月14日、SpaceX社のStarship/Super Heavyロケット(以降、簡略化のため、Starshipと略称)がテキサス州南部のボカチカ近くの発射施設から3度目の飛行試験を行い、宇宙空間の所定高度に見事に到達しました。Starshipは、月や火星に人や物資を輸送するミッションを低コストで達成するために完全再利用を目指した世界で最も巨大なロケット(全長121m、直径9m)です。

この巨大ロケットStarshipのさらに特筆すべき点は、機体の材料とエンジンの数です。通常、ロケットは飛行機と同じく、より少ない燃料でより遠くに荷物を運ぶために、コストはかかっても軽くて丈夫なアルミニウム合金や炭素繊維複合材を構造部材に選ぶことが常識でした。しかし、Starshipはなんと、機体を何度も再利用させることを想定し、安さ・強度・耐熱性に優れたステンレス鋼を機体の構造部材に選定したのです。その結果、とてつもなく重くなった機体(約4400トン)を宇宙空間に到達させるために非常にパワフルなエンジン(推力約300トン)を1段目に33個も装着しました。ちなみに、日本の最新大型ロケットの1段メインエンジンの数は最大で3個。Starshipロケットのエンジン数の約1/10です。

SpaceX社が魅せるスピードと技、 アメリカのスタートアップの底力

イーロン・マスク率いるSpaceX社は、1段ロケットの回収・再利用技術を適用したFalcon9ロケットを開発したことで、圧倒的なコストダウンを実現しました。これまで世界のどのロケット製造会社も達成できなかった技術です。Falcon9ロケットは、商業衛星打ち上げ市場において、世界1位の座を確立、いまや、年間60機以上の打上げを達成するに至りました。巨大ロケットStarshipもまさにそうですが、常識の上のさらに上を行く設計思想と、失敗をものともせず前に進む突破力とスピードで、瞬く間に宇宙・ロケット産業の業界マップを塗り替えてしまったのです。

かく言う筆者である私は、三菱重工業でH-IIA、H-IIB、H3ロケットの開発・運用に携わり、ロケット技術者の道を20年以上歩んできました。振り返れば、開発や打上げ運用の現場では失敗・不適合の連続でした。その都度、立ち止まり、反省し、信頼性の高い製品を作り出すために、何重もの



審査ゲートを通り、ようやく工場から種子島宇宙センターにロケットを送り出すのに、1年や2年があったという間に過ぎていくことはざらでした。こうした自身の経験と照らし合わせても、SpaceX社をはじめ、米国のスタートアップ(新興企業)が魅せるスピードと技は、何故かくも我々とここまでの差がついてしまうのか。

ロケット業界に限った話ではありません。エネルギー、医薬、コンピュータサイエンス、あらゆる分野で米国発のイノベーションの勢いは、とどまることを知りません。ロケットの業界を題材にこの背後の要因について、私なりに考察してみたいと思います。

挑戦の数だけ失敗がある。

次に結びつく失敗から得る学習効果

“失敗を恐れるな”という言葉、皆さんもよく耳にされると思います。自身が発することもあれば、人から励まされることもあるかと思いますが、しかし、少なくとも私がこれまで歩んできた道を振り返ると、もし失敗してしまったら・・・→もう後がない(チャンスは1度だけ)→絶対失敗できない→よって、確実に成功できる安全策をとる、という思考回路が出来上がってしまい、恥ずかしながら“失敗を恐れるな”などはほど遠い人生でした。失敗を伴う挑戦を評価しなかったり、復活のチャンスが少なかったりと、本当は目前に広がるたくさんの可能性を自らも、周りも閉ざしてしまう、そういう風潮が少なからず影響していたように感じています。

SpaceX社は、初期のロケットを連続3機打ち上げに失敗して、4機目でようやく成功しました。その後も本番の打ち上げ、実証試験の中で、数えきれないほどの失敗を繰り返し、失敗だけを編集した動画を音楽付きでYouTubeにアップ、失敗にめげず前進する姿を世界中にアピールしています。失敗から学ぶことは非常にたくさんあると思います。受験、恋愛、結婚、仕事、スポーツ、怪我・・・私の人生、失敗を恐れる割に、失敗だらけで、人間としてあまり成長していないなどと思うものの、やはり、失敗から得る学習効果が一番深みがあるのではないかと実感します。

SpaceXに代表される米国のスタートアップの成長の速度と勢いは、失敗を織り込み済みの挑戦を数多く実践する点、それを支える資金力と国家戦略、国民の1人1人のマインド、あらゆる要素がバランスよくかみ合うことで実現されているのではないかと考えます。

成長(技術向上)の度合い

$$G=(1+a)^N \quad N=\text{回数を増やしていこう!}$$

東京大学で宇宙工学の教鞭をとる中須賀真一先生が技術向上(成長)度合いに関して持論を展開されています。私は深く賛同しており、皆様にもこの紙面をお借りして、ご紹介したいと思います。

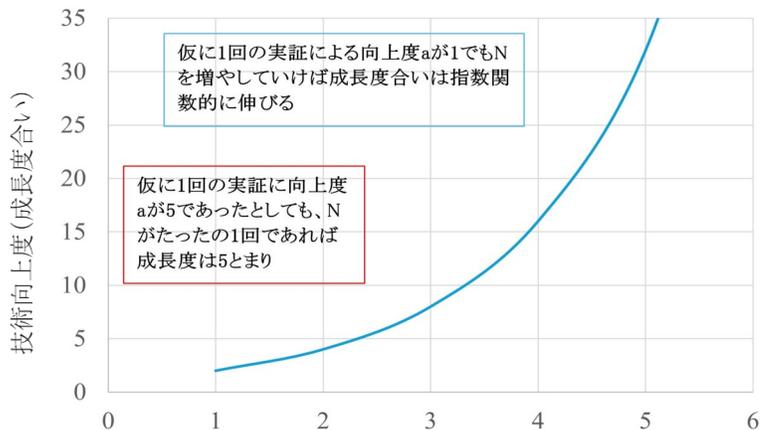
成長や技術の向上度G(Growthの頭文字G)は、 $(1+a)^N$ の式で、表現できるというものです。ここで、aは、1回の実証で得られる技術向上度、Nは、実証の頻度(回数)を表します。少なくとも私が携わってきたロケット開発の現場では、実証(開発試験)を行うにしても、Nの回数が非常に限られており、極端な話、N=1、つまり1回限りの実証で結果を出すことが多くの場合求められました。いくらaを大きくしようとも、Nが小さければ、技術向上度Gは大きくなりません。日本の開発現場は、Nを小さく抑え、aを大きくすることに注力する傾向があるように感じます。一方、米国は、皆様もすでにお気づきと思いますが、実証回数Nを重視します。

(P.8につづく)

成長(技術向上)の度合い

$G=(1+a)^N$ N=回数を増やしていこう！(つづき)

技術向上度と実証頻度Nの関係



こちらに示すグラフで比較すると一目瞭然です。実証を通じて、次に結びつく失敗を積極的に経験している。これが、イノベーションを生み

出す上での大きな差だと感じます。もちろん、実証には多くのリソース(人員、費用)が必要となります。これを支える資金力や、多様な人材が米国は豊富であることも、決定的な差であると考えます。

昨今は、IT技術の発達によってコンピュータによるシミュレーション技術も発達しているので、模擬的にNの回数を増やすことも可能になっています。これはIT・デジタル技術の進歩による恩恵です。Nを増やしていくこと、それに伴う失敗を断じることなく、失敗から学ぶ姿勢といったものを、次世代の日本を担う子供たちに、初等教育のレベルから伝えていくことが私は遠回りなように見えて、日本復活に向けた一番の近道のように思います。

成熟した私達、大人の社会でも、この姿勢を学ぶことは決して遅くはありません。米国のスタートアップのエコシステム(生態系)に自ら入り込んで、大企業の文化を変え、新しい風を巻き起こし、イノベーションを創出することが、現在、私がこのヒューストンで取り組んでいる仕事であり、とてもやりがいのあるミッションなのです。

ヒューストンから飛び立つ巨大ロケットStarshipを私はこれからも応援したいと思います。そして、挑戦の結果、ロケットの空中爆発が万が一起こっても、その失敗を同じエンジニアの立場としてはとても悔しいと思う一方で、どこか羨ましいと感じるに違いありません。なぜなら、彼らはそこから多くのことを学んで更に大きく成長できるからです。

(米国三菱重工業 三原与周)

駐妻のヒューストン日記

第235回 増村光恵さん

2013年からミシガン州へ夫の駐在に帯同し、その後2021年にヒューストンへ移動となりました。アメリカ滞在は計11年。アメリカで生まれ育った娘たちは、あっという間に10歳と7歳になりました。

さて、駐妻という言葉を知ると、みなさんはどのようなイメージをお持ちになるでしょうか。私はアメリカに来るまでは、駐妻という言葉にキラキラした華やかなイメージを持っていました。しかし、実際に自分自身が駐妻になってみると、現実とは想像していたキラキラした世界ばかりではないことがわかりました。ここでは駐妻生活11年間を振り返って、辛かったこと、大変だったこと、またアメリカならではの貴重な経験をいくつか書きたいと思います。

【失業】

夫のアメリカ駐在に帯同することは、私にとっては仕事を失うことでもありました。駐妻になったと言えれば聞こえがいいのですが、言い方を変えれば無職です。日本でのやりがいのある大好きだった仕事と仕事仲間を失い、渡米後しばらくは大きな喪失感を味わうこととなりました。夫に養ってもらおうことへの後ろめたさ、孤独感や不安感を抱いて、自分に自信を持ってない時期もありました。最初は辛いと感じることが多かったアメリカ生活ですが、家族や友人に支えられながら、毎日が少しずつ楽しく充実したものへと変わっていききました。

【日本との違い】

日本での常識はアメリカでの常識ではありませんでした。業者の方が約束の時間に来てくれなかったり、ネットで注文したものが届かなかったり。最初はショックでしたが、ネットで注文したものがちゃんと届いたときは、むしろ嬉しく感じられるようになりました。今でも物事がスムーズに進まないことに困惑することもあります。小さなことでうまく

くいたり、理解しあえたりしたとき、感謝できるようになりました。

【バイリンガルへの険しい道】

アメリカで生まれ育った子供は自然にバイリンガルになれるのでは、という淡い期待を抱いていましたが、わが家の娘たちが自然にバイリンガルになることはありませんでした。子供が日本語と英語を同時に習得していくことの難しさを実感しました。娘たちにはネイティブに近いレベルの英語力をつけさせたい一方で、日本に本帰国した時のことを考えると、日本語もしっかり身につけさせたい。焦る気持ちが募るばかりで、なかなか思うようにいかない二言語同時習得に悩み、試行錯誤を繰り返す日々が続きました。さらに娘たちが現地校に通い始めると、日本語を使い学ぶことへの興味、関心、モチベーションを保つのが、家庭だけでは難しく、限界を感じるようになりました。ヒューストンに来てからは、日本語補習校での先生方の熱心で手厚い授業と三水会センター図書館にとっても助けられています。

子供が複数の言語を同時に学び続けることは、本人にとってもサポートする親にとっても容易なことではありません。しかし、多様な人々が集まるここアメリカで、子供たちはただ英語と日本語を習得するだけでなく、国際的な広い視野、柔軟性や異文化への理解を身につけていると感じます。

【住めば都】

早く日本に帰りたと思った日もありましたが、住めば都とはよく言ったもので、いつの間にか今住んでいる場所が、心地のよい場所、大好きな場所になりました。広々としてきれいな公園と、どこまでも続く青い空。今思えば、日本で働いていた時、ゆっくり空を見上げる余裕はありませんでした。アメリカ生活の中で大変だったことも沢山ありましたが、日本では経験することができない貴重な機会と時間を与えてもらったことに感謝し、残された駐妻生活1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。

駐夫日記、駐在ファミリー日記も募集中!!

着任のあいさつ

ヒューストン日本語補習校 小澤啓行

ヒューストンにお住まいの皆さま、初めまして。このたび4月からヒューストン日本語補習校に教頭として勤務することになりました、小澤啓行(おざわひろゆき)と申します。福島県から参りました。どうぞよろしくお願いいたします。



皆さまの中にはヒューストンを自ら選んでお住まいになっている方も多くいらっしゃると思いますが、私の場合は文部科学省から派遣されるため、勤務場所の決定はまさに運命でした。ヒューストンと知ったとき、すぐに地図で位置を調べました。「南部テキサス州にあるぞ。一年中暖かいのかな…。雪は降らないのかな?ということは冬服は不要?海は近いのかな?公共交通機関はどうなっているのだろうか?自動車は必要なのだろうか…。車は右、人は左が大丈夫かな…。休日の過ごし方はどうすればいいのだろうか?日系のスーパーなどはあるのかな?病院はどうなっているのだろうか?おっ!ヒューストンには日本国の総領事館があるぞ。これは安心!」などと頭の中を駆け巡り、大きなワクワク感と多少の不安感が入り混じる状態で今に至ります。

さて、全世界各地にある補習校は「保護者の皆さまのお力添えをいただいて運営している」と考えています。日本国内の学校の場合は、月～金が児童生徒の登校日であることから、ある程度は教員の力で学校運営が行われ、状況によって保護者の皆さまのお力添えもいただく、という現状です。



一方、本校のような土曜補習校の学校運営では、校長先生や現地の先生方の献身的な教育活動に加えて、運営委員会の皆さまのお力添えと保護者様のご協力が大きな意味を持つものと推察されます。ラグビーに例えて言うなら、メンバーの数と個性が多様であればあるほど、強靱なスクラムを組めるのではと思います。

私も微力ではありますが本校児童生徒のためにそのスクラムの一員として尽力してまいります。これからどうぞよろしくお願いいたします。



ヒューストン日本語補習校 入園・入学式

4月6日、第53回ヒューストン日本語補習校入園・入学式が執り行われました。子供たちの新たな旅立ちを祝福するような晴れやかな天気にも恵まれ、幼稚園54名、小学部66名、中学部41名、高等部19名の輝く姿が、ここ補習校に集まりました。

中等部・高等部の式は、生徒たちの堂々とした入場で始まりました。新入生・在校生ともに素晴らしいスピーチを披露し、自分の同年時代と比べてその成熟度に驚かされました。生徒たちの輝く未来が、この瞬間からうかがえます。

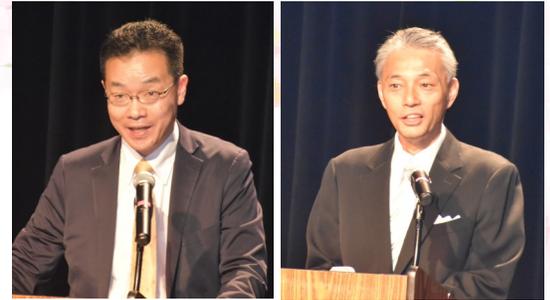
幼稚園・小学部の式では、学校生活への初めての一步を踏み出した子供たちの初々しい姿が印象的でした。担任の先生が一人一人の名前を読み上げると、初めの戸惑いから次第に明るい返事へと変わる様子が、園児・児童たちの適応力の高さを物語っています。今後の補習校での活発な学びへの期待が膨らみます。

総領事代理齋藤様から「現地校と補習校の両立は大変だが、貴重な経験であり、将来必ず役に立つ。知識や友達の輪を広げ、学校生活を楽しんで欲しい。」とのお言葉を頂きました。

また、岡林校長先生から「どんな環境や出会いも必ず意味がある。前向きな気持ちで新生活を楽しんで欲しい。」とのお言葉がありました。

新入生の皆様、保護者の皆様、入園・入学、おめでとうございます。補習校で仲間と共に楽しく学び、大きく成長されることを心より期待しています。

(ヒューストン日本語補習校運営委員 鶴飼博哉)



▲総領事代理齋藤様祝辞(左) 岡林校長先生式辞(右)



▲中学部歓迎の言葉



▲中学部新入生の言葉



▲小学部新入生の言葉



▲小学部歓迎の言葉

このページでは医療の最前線でご活躍されているメディカルセンターのドクターにリレー方式でご登場頂き、健康と医療についてお話を頂きます。

今月号は水野秀明先生から血液内科がご専門の蒲池和晴先生にバトンが移りました。

第232回

白血病が飲み薬で治る？

MD Anderson Cancer Center, Postdoctoral Fellow

蒲池和晴



こんにちは。2023年11月末からMD Anderson Cancer Centerの白血病科にて主に白血病の研究に従事しております。私は、九州は佐賀県から参りました(たまに佐賀？どこ？はなわ？と思われる方もおられますが、福岡と長崎の間です)。これまで血液腫瘍内科医として佐賀大学附属病院や唐津赤十字病院にて勤務してきましたが、一念発起で家族と共にヒューストンに参りました。約4カ月が経ち、ようやく生活のリズムが整ってきたと感じる今日この頃です。テキサス新参者ですが、何卒よろしくお願ひ致します。今回、私がMDアンダーソンがんセンターへ研究留学した理由は、がん治療の「トランスレーショナル研究」に興味があるからです。この「トランスレーショナル研究」とは、研究結果を通じて最終的に患者さんに役立つ技術や治療薬を届ける橋渡しを目指す研究であり、端的には“Bench to Bedside”とも表現されます。ご存知の通り、テキサス医療センターは世界最大のがん医療研究施設であり、トランスレーショナル研究を行う最高の環境で研究ができることを大変光栄に思います。私の専門である血液がん領域は、歴史的にも先進的な分子標的治療、免疫細胞治療が開発されてきた分野です。今回は、「白血病が飲み薬で治る？」というテーマで、分子標的治療の先駆けで最大の成功例である「慢性骨髄性白血病」についてご紹介したいと思います。

1. 慢性骨髄性白血病とは

白血病は、血液細胞の一つである白血球のがん細胞が全身で増殖する疾患の総称であり、さまざまな種類があります。中でも白血病全体の約20%を占めるのが慢性骨髄性白血病です。染色体9番と22番の相互転座(フィラデルフィア染色体と呼ばれます)により、BCR-ABLという異常な蛋白質が作られ、細胞増殖が止まらなくなることが原因です。子供から高齢者までのあらゆる年齢で発症し、慢性という言葉通り、初期は無症状のことが多く、健診の血液検査異常や脾臓の腫れで偶然に発見されることが多いです。しかし、4-5年程度はゆっくりと進行しますが、その後急速に病状が進行し死に至る疾患です。

2. 最も成功した分子標的治療薬 イマチニブ

慢性骨髄性白血病と診断された場合、従来の抗がん剤治療では効果が乏しく、同種移植(ドナーの骨髄に置換する治療)が唯一根治が期待できる治療法でしたが、合併症も多く、10年生存率は50%程度でした。しかし、2001年よりイマチニブ(グリベック)という飲み薬が登場し、それ以降、慢性骨髄性白血病の10年生存率は90%程度まで劇的に改善し、ほぼ死なない病気となりました。このイマチニブは、従来の抗がん剤と異なり、BCR-ABL蛋白質の一部に選択的に結合するように設計されています。その結合により、BCR-ABL蛋白質の活性を抑え、白血病細胞をピンポイントで殺すことができ、副作用を最小限に抑えることができます。実際に、従来は長期入院と副作用に耐えながら抗がん剤治療を受けていた患者さんが、イマチニブ登場後は外来で処方箋を受け取るだけでよいという劇的な変化は、当時の血液内科医にとって衝撃的でした。現在、各分野で様々な分子標的治療薬が開発されていますが、このイマチニブの成功が道標になっています。

3. 医療費と慢性合併症の問題

慢性骨髄性白血病に対する分子標的治療薬は、イマチニブより強力な有効な薬剤が複数開発されており、それによって患者さんの寿命は一般の平均寿命とほぼ同等という研究結果が示されています。これは素晴らしいことですが、生涯にわたって飲み続けなければならないため、高額な医療費を支払い続ける必要があります。日本では高額療養費制度があり自己負担額の上限が定められますが、それでも負担額は大きく(個人によりますが年間数十万円かかります)、支払いが継続できずに治療を続けられない患者さんがいます。他国では自己負担はさらに厳しい状況です。ジェネリック医薬品の使用により負担が軽減されることがありますが、依然として大きな問題です。また、数十年にわたり薬を服用すると、心臓や血管、腎臓などに合併症が生じる可能性があることがわかってきています。

4. 白血病が飲み薬で治る可能性

慢性骨髄性白血病の患者さんの中には、医療費負担やその他の理由から途中で飲み薬を中断した場合でも再発しない(ほぼ治癒と考えられる)ケースがあります。2010年以降、一定の治療期間と治療効果基準を満たした慢性骨髄性白血病患者さんで飲み薬を中止する臨床試験が複数実施され、約半数で飲み薬を中止しても再発しないことがわかってきました。飲み薬を中止できれば、生涯にわたる医療費負担や長期的な合併症の問題を克服できます。飲み薬を中止しても再発しない理由や本当に治癒したのかどうかについては現在も研究が進行中ですが、白血病が飲み薬で治る可能性が示されており、大変興味深いです。

以上、慢性骨髄性白血病に関する分子標的治療薬の成功、問題点、治癒の可能性について簡単にご紹介させていただきました。少々専門的な内容でしたが、興味を持っていただければ幸いです。最後になりますが、皆様のご健康とご多幸をお祈りして締めくくりたいと思います。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

今回は産婦人科がご専門の高松士朗先生です。高松先生とは、ヒューストンで毎月開催されている「サイエンスを遊ぼうの会」で初めてお会いしました。場慣れしていない私にとっても大らかに優しいトーンの関西弁で話しかけていただき、とてもリラックスできました。MDアンダーソンのオフィスも近くで、お酒もお好きのようで、これからのヒューストンライフが楽しみです。

ピーカンキッズ ～あそぼーかい～

2024年3月のあそぼーかいのテーマは「ひなまつり」でした。人気マスコットキャラクターのとらおくん、とらこちゃんが登場し、ひなまつりにうちでどんなことをしたのか、お話ししてくれます。飾りつけやひなまつりの食べ物について話してくれました。子どもたちはとても楽しかったようです。

司会のお姉さんから、ひなまつりに食べるひなあられの色の意味について教えてもらいました。4色がそれぞれの季節をあらわしていて、1年間元気に過ごせるようにと願いが込められているんですって。ママたちも「なるほど」といった表情でした。



次は体遊び。みんなはかわいい“ぞうきん”になって、「ら・ら・ら・ぞうきん」の歌で遊びました。ちくちくぬったり、じゃぶじゃぶ洗ったり、くすぐたくて笑ってしまいます！ぜひうちでも試してみてくださいね。

続いて人形劇「ももたろう」のはじまりはじまり。人形たちが動く子どもたちもお人形のそばへやってきて、お話に引き込まれていきました。ももから男の子が飛び出してきてびっくり！きじ、さる、とりがもらったきびだんごもとてもおい



しそうです。ももたろうがなかまを連れて鬼を退治に行くときは、はらはら、どきどき。無事にももたろうがおじいさんとおばあさんのところへ帰ったときには、みんなで喜びました。

次は工作の時間です。折り紙でおひなさまを作ります。きれいな千代紙をもらってママと一緒に折り、顔を書いて紙皿に貼れば、壁に飾ることのできるおひなさまの完成です。小さなお友達もママと一緒に上手に作ることが出来ました。今回は少し大きなお友達も参加してくれたので、ぜんぶ自分一人で頑張ったお友達も。自分で作ると楽しいですね。完成したおひなさまを持ってみんなで「ひなまつり」の歌を歌います。すこし昔の言葉が出てくる難しい歌でしたが、とても上手に歌うことが出来ました。日本語のきれいな響き、お友達にも心地良く聞こえたようです。

今回は残念ながら今月お誕生日のお友達は参加されていませんでした。あそぼーかいではお誕生日のお友達が参加してくれた時にはかわいなお土産をお渡ししています。お誕生日のお友達、よかったらぜひ来てくださいね。



あそぼーかいが終わってもお楽しみは続きます。あそぼーかいの後にはママたちの交流会の時間。短い時間ではありますが、お茶を飲みながらゆっくりとママ同士でお話されていました。子供たちはスタッフが絵本の読み聞かせをしているのでそちらに夢中！もっともっとと何冊もリクエストしてくれました。

次回の開催は4月18日(木)を予定しています。次回のテーマは「春」。たくさんのお友達に会えることを楽しみにしています。あそぼーかいではたくさんのお友達に参加していただけるように次回以降土曜日に開催することも検討しています。今後の日程等、詳しい情報はヒューストンナビに掲載予定です。また、中止や予定変更になる場合もヒューストンナビにてお知らせしますので、お出かけ前にご確認ください。たくさんの方のお越しをお待ちしております。
(神原 裕香里)

ワン!モア ヒューストン Vol.11 避難も犬連れ 川原志津香(家庭犬しつけインストラクター)

日本から引っ越してきてから早2年経ちました。現在住んでいるKatyの自宅は、スプリンクラーの不具合、トイレのタンクの亀裂、キッチンのディスプレイの不具合等々にかく故障が多く、その度に家のオーナーに連絡をして修理をしてもらっています。そんな数ある故障の中でも大変だったのは、クーラーの故障でした。

連日記録的な暑さとなった昨年7月、それまで稼働していたクーラーが、ブーンと音を立てた後、突然動かなくなりました。停電でもブレーカーの問題でもないことを確認すると、大急ぎで家のオーナーに連絡を取りました。すぐに修理の手配をしてくれましたが、ちょうど週末を挟んでしまい、修理に必要な部品を調達できるのが最短で月曜日と言われてしまいました。

近所の方から扇風機を借りて一晩は凌いだものの、時間が経つにつれて室内の温度も上がってきたので、人も犬も熱中症になる前にホテルに避難することにしました。修理の人が来るときにはすぐに帰宅できるように、自宅から車で15分のところにある犬同伴で宿泊できるホテルを予約して移動。もちろん、当時生後4ヶ月だったアクアも一緒に連れて行くことになりました。

猛暑でエアコンの不具合も増えたと聞いて、場合によっては月曜日に直らないかもしれないと覚悟していましたが、幸い予定通り月曜日にクーラーの修理が完了して無事に自宅に戻ることができました。涼しい我が家は快適で、前日に室内の温度が91F(33℃)だったのが嘘のようでした。

まさか子犬を連れて避難することになろうとは思っていませんでしたが、

今回のことを通じて、クレートトレーニングと社会化は大切だと改めて思いました。クレートというのはプラスチック製の犬用のハウスのことを言いますが、アクアを我が家に迎えてから、毎日寝るときや留守番のときにはこのクレートに入る習慣をつけていたので、慣れないホテルに移動しても、クレートさえあれば自分の部屋ごと引っ越している感覚で落ち着いていられました。慣れないホテルの部屋で、私たちが見えない間に家具などをいたずらして傷つけてしまったり、部屋の絨毯に排泄してしまったりという心配もありませんでした。また、身の回りの色々な刺激を怖がらないように慣らす社会化を進めていたため、ホテルで多くの人に会ったり、エレベーターに乗ったりという日頃と少し違う状況になっても怖がりすぎることなく過ごせました。犬も家族ですから、人が避難する際には同伴するのは当然ですが、いつもと違う環境が不安で吠えてしまう避難した先でお互いがストレスになってしまいます。犬と暮らす方は、日頃からの社会化やクレートトレーニングをお勧め致します。

後日談ですが、少し涼しくなったタイミングで今度はまさかのヒーターの故障が発覚しました。ヒーターの修理に来た人は数ヶ月前にクーラーの修理に来てくれた人でしたが、「あの子犬がこんなに成長したのか」とアクアのことを覚えてくれて、アクアも尻尾をふりながら挨拶していました。犬同伴で避難するような事態は避けたいのですが、万が一への備えあれば憂いなしです。



2024年ガルフストリーム 読者アンケートについて



読者の皆様へ、

平素はガルフストリーム誌をご愛読いただき、ありがとうございます。2022年のアンケートに引き続き、今年も5月にアンケートを行います。コロナ禍により電子化に移行し、先のアンケート結果を踏まえて電子化の継続を決定しておりますが、今回のアンケートでは人気記事をはじめ、コンテンツに対するご意向を把握して、よりよい誌面の拡充に向けて、改善を進めていきたいと思っております。

4月号でも告知させて頂き、また、商工会の会員各位には、商工会事務局からのメールでもご案内差し上げたところですが、5月31日までの一

か月間実施しております。

皆さまから頂いたアンケートの結果は、とりまとめの上7月号にて掲載予定です。

是非、周りの方々にもお声掛けの上、ご回答を賜りたく、よろしくお願い致します。

(編集委員長 稲田徳弘)

▼アンケートは**こちら**から



令和5年度(2023-2024)4月 商工会常任委員会 議事録

日時: 2024年4月17日(水)13:00~13:50

会場: United Way of Greater Houston CRC

出席者: 40名(うち名誉会長、名誉会員、常任委員29名、理事委員1名、代理正会員4名、オブザーバー3名、事務局長)

欠席者: 85名(うち会長委任44名、代理委任4名、無回答37名)

*会員消息

本日現在の会員数は、名誉会員数 11名、正個人会員数 857名、(正団体会員数 114社)、準会員数51名で、総会員数は919名となった。3月末付の退会は、準会員の黒田 雅博氏(Hitachi Solutions America, Ltd.) 1名。

議事録と会員消息の詳細は、商工会HP「[会員専用ページ](#)」を参照。

Houston Walker

■ May 17 & June 15

Houston Dash@ Shell Energy Stadium

ヒューストン・ダッシュに移籍した元なでしこ永里優季選手を応援しましょう! ホームゲームでは5月17日にポートランド・ソーネズFC、6月15日にLA・エンジェルシティーFCと対戦。LA・遠藤純選手、ポートランド・杉田妃和選手との日本女子サッカー対決も楽しみです。

■ May 20

Defining Courage @ Alley Theatre

第二次世界大戦でアメリカに忠誠を誓い戦った日系人兵士たちの壮絶な歴史を、ドキュメンタリー映画や讃美歌の生演奏、ステージでの当事者インタビューで伝えるイベントが全米日系人博物館主催で開催されます。午後6時半よりアリーシアターのNeuhaus Theatreにて、プレゼンテーションは英語で行われます。

■ May 31

Kanpai! A Saké Tasting Tour of Japan@ Asia Society of Texas

アジア系アメリカ人ヘリテージ月間の5月。アジアソサエティでは月を通してさまざまなイベントが行われ、最終日には総領事館や日米協会、源氏酒「Genji Sake」協力のもと、アメリカで人気が高まる日本酒のテイスティングイベントが企画されています。

■ June 6

NBA FINALS

プロバスケットボールNBAもファイナルへ、Game1は6月6日からスタートです。新星ケイト

リン・クラークがインディアナ・フィーバーに加入した女子プロWNBAは5月14日より2024シーズンがスタートしています。

■ June 14-16

ASTROS Father's Day Weekend at Minute Maid Park

父の日の週末、アストロズの野球観戦はいかがですか? デトロイト・タイガース戦では特別企画として、14日ホセ・アルトゥーベ選手のダブルヘッド人形、15日アロハシャツ、16日アルトゥーベ選手タンブラーがそれぞれ先着1000名にプレゼントされます。

■ June. 14 & 15

Wells Fargo Presents Juneteenth: A Musical Journey through Eras@Miller Outdoor Theatre

黒人奴隷廃止を祝うジュンティーンズをテーマにした無料コンサートがハーマンパークの屋外シアターにて開催されます。Hip-Hop、R&Bやブルースなど黒人音楽の歴史をたどり紹介します。着席チケットは6月13日より、ハーマンパークウェブサイトにて予約可能。

■ June. 15

June Teenth Festival & Parade @Galveston

テキサス州の奴隷解放宣言が行われたガルベストン。海沿いのMenard Parkでは露店が並ぶフェスティバル、街中ではパレードが行われます。

■ June. 15&16

Tokyo X@NRG Center

現代日本文化の魅力を発信するTokyo X。和太鼓の演奏やライブステージ、ラーメンなどの日本食の販売、コスプレコンテスト、アニメ声優と会えるイベントなどが企画されています。

編集後記

ガルフ読者の皆様、こんにちは! 2022年10月から約1年半にわたり編集委員を務め、今月号を最後に編集委員を引退する予定の米国三井物産の津島です。最初に早坂前商工会長から編集委員に加わるようお願い頂いた時は「これまでの人生で編集関連の仕事をしたことがない私に編集委員が務まるだろうか?」と不安でいっぱいでしたが、ガルフ編集員の皆様の温かいサポート・和気あいあいとした編集会議の雰囲気でごここまで続けることが出来ました。

編集員の仕事で思い出に残っているのは、自ら執筆したソフトボール大会応援特集と新旧編集員対談でした。推敲を重ねて執筆した記事が商工会の皆様へ届けられ、様々な方から感想をもらえたのはとても良い経験になりました。

また編集委員を通じて人的ネットワークが通じたのも素晴らしい財産になりました。毎月の編集会議や半年に一度の懇親会を通じて、普段会社で業務をしているだけでは知り合えない方と仲良くなったこと、特にヒューストン在住歴の長い方と人脈が繋がり、現地ならではの情報が聞けて、自身のヒューストン愛が高まったと思います。もちろん編集作業に時間を割かなければならない面もありますが、それ以上のリターンがある仕事だと思います。特にヒューストン駐在歴が浅くヒューストンのことをもっとよく知りたい方や仕事以外での人脈を広げたい方、是非編集員に応募してみてもどうでしょうか。

(米国三井物産 津島博紀)

ガルフストリームは毎月15日発行です。

編集委員および投稿募集中!

問い合わせ先: sansuikai@bahouston.org
ガルフストリームは、ホームページでも閲覧可能です。
<https://www.jbahoustongulfstream.com/>

発行: ヒューストン日本商工会

発行責任者: 石川隆次郎

編集委員長: 稲田徳弘

構成・編集: ガルフストリーム編集委員一同

内容は記事執筆時点の情報に基づいています。変更になる場合もありますので、お出かけ前に各自で最新の情報を主催者サイト等でご確認ください。

免責事項: 本紙掲載の情報について、できる限り正確な情報を提供するように努めておりますが、正確性や安全性を保证するものではありません。情報が古くなっていることもございます。掲載された内容によって生じた損害等の一切の責任を負いかねますのでご了承ください。また本誌に掲載したリンク先の第三者サイトについて、同サイトに掲載されている内容を確認していません。ご自身の責任でご利用ください。